

中期経営Vision FY2027–FY2029

(2027年5月期 – 2029年5月期)

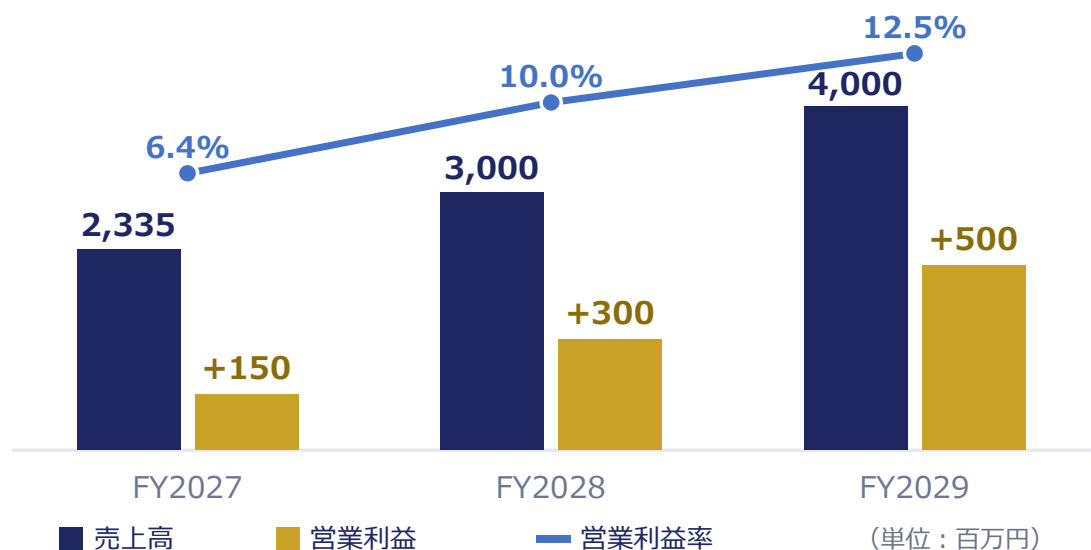
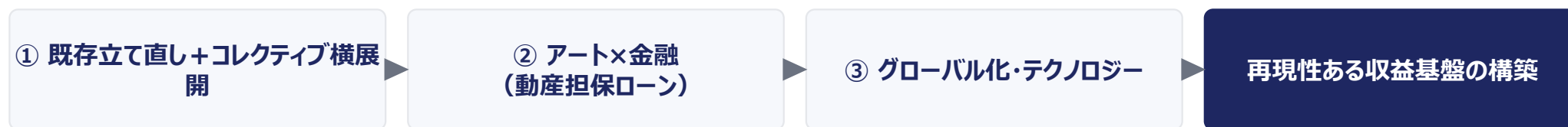
オークションハウスから、アート×金融プラットフォームへ
信頼回復を起点とした収益構造改革

シンワイズホールディングス株式会社（東証スタンダード：2437） / 2026年7月15日

本資料は投資家向けの中期経営Vision説明資料です。FY2027は業績予想に相当する計画値、FY2028–FY2029は経営目標であり、いずれも将来の達成を保証するものではありません。FY2028–FY2029の経営目標は所要資金の確保を前提としており（確保できない場合は規模を調整します）、FY2027の計画値は新たな資金調達を前提としていません。

EXECUTIVE SUMMARY

信頼回復を起点に、オークションハウスからアート×金融プラットフォームへ



FY2029 到達点

FY2027 → FY2029 (成長率)

売上高 **4,000** 1.7倍

営業利益 **+500** 3.3倍

営業利益率 **12.5%** +6.1pt

※ 売上高・営業利益は百万円

※ FY2027は業績予想に相当する計画値、FY2028-29は経営目標（FY2028-29は所要資金の確保を前提とし、FY2027は新たな資金調達を前提としません）。

ROADMAP

FY2027に構造改革を完了し、FY2028から成長フェーズへ移行する

Phase 1 立て直し

FY2026下期 – FY2027

オークション再建とPS拡張で収益を回復。
FY2027に構造改革・新体制移行を完了。

- ▶ 仕入れ強化・外国人顧客拡大・PS拡張
- ▶ アート金融の事業部設立・貸金業登録の取得
- ▶ コレクティブ横展開の準備・試行

Phase 2 本格化

FY2028

アート担保ローンの運用を開始し、ストック収益
の構築に着手。横展開を拡大。

- ▶ アート担保ローンの運用開始（小規模から検証）
- ▶ AI査定・真贋証明（Shinwa Cert.）の実装
- ▶ コレクティブ拡大・海外有力ハウスとの提携を協議

Phase 3 確立

FY2029

ストック収益の拡大と収益基盤の定着。次期計画
を策定。

- ▶ スtock収益の拡大・収益基盤の定着
- ▶ 実績検証・次期中期計画の策定
- ▶ 長期ビジョンへの接続

課題を正面から認識し、経営体制とガバナンスを順次刷新している

01 過去の課題

- 過年度の不適切な会計（プライベートセール関連）
- 売上認識・取引区分・関連当事者等の論点
- オークション事業の収益性低下

02 経営・ガバナンスの刷新

- 2025年12月 主要株主の異動（Catalyst）
- 2026年3月 代表取締役の異動
- 取引審査・会計判定・開示プロセスを順次整備

03 継続課題

- 過年度事案の影響の解消と統制の定着
- 新経営体制の定着とガバナンスの実効性確保
- 新規事業の実行力の確保

これらの是正は順次実行中であり、本計画はその延長線上で、信頼回復を起点とした収益構造改革を示すものである。

MARKET TAILWIND

当社が狙う3市場は構造的に成長 — 戦略と市場の追い風が一致する

\$59.6B

グローバルアート市場

2025年 | 米・英・中で76%

+40%

メガハウスのPS成長

Sotheby's | PSへ構造シフト

165万世帯

国内の富裕層

純金融資産469兆円 | 団塊相続

\$28.7→50.1B

アート×金融市場

年率18-22% | 国内は参入余地大

3.3→4兆円

国内リユース市場

2030予測 | コレクティブ拡大

市場全体は2024年の調整から2025年に回復（+4%）。当社が狙うPS・アート金融・コレクティブの3領域は構造的に成長している。

出所：Art Basel & UBS 2026、Deloitte & ArtTactic 2025、メガハウス各社開示、野村総合研究所2025、リユース業界統計

既存事業の立て直しとコレクティブ横展開

① オークション事業の立て直し

仕入れ（供給）を広げる

地銀

税理士・会計士

M&A仲介

IFA

質屋

美術館・財団

オークション・プライベートセール

売り先（買い手）を広げる

外国人顧客

若年層コレクター

多言語入札サイト

PS拡張

両サイドを広げ、オークションの流通量と換価力を高める

② コレクティブ横展開

FY2027 下期

トレーディングカード

FY2028 上期

スニーカー・ブランド品

FY2028 下期

映画小道具・エンタメ

FY2029 上期

プライマリーオークション

背景データ

- 国内トレカ：販売額 +9~28% YoY
- 国内スニーカー：39億ドル→55億ドル
- リユース市場：3.3兆円（+4.5%）
- プライマリーは IP×真贋証明で差別化

※ FY2027は各カテゴリの準備・試行フェーズであり、収益はFY2027業績予想に織り込んでいない（本格化はFY2028以降）。

アート×金融 — 動産担保ローンで利息（ストック）収益を構築する

事業モデル

ローンの仕組みと競争優位

アート資産を担保に

美術品・宝飾・時計・ワイン・ブランド品等

自社の査定・換価力で評価

37年蓄積の査定DBで合理的にLTVを算定（強み）

動産担保ローンを実行

期間6–24か月・デフォルト時は自社で換価

ストック収益を新設

※ デフォルト時は自社オークション等で換価（回収額・期間は市況により変動）

展開ロードマップ

時期	マイルストーン
FY2027 上期	事業部設立、人材獲得の着手
FY2027 下期	与信・担保評価・回収規程の整備、貸金業登録の申請・取得
FY2028 上期	運用開始（小規模から検証）、M&Aを検討
FY2028 下期	AI初期査定の導入
FY2029	AI初期査定の本格運用

グローバル化・テクノロジー — 海外連携とAI・真贋証明

テクノロジー実装

AI査定鑑定

→ 査定スピードの短縮

- 外部AIプロバイダーとライセンス提携
- 担保ローンの初期査定に活用
- FY2028下期 一般向け『AI簡易査定』を検討
- 最終は目利き+科学分析のハイブリッド堅持

ブロックチェーン真贋証明「Shinwa Cert.」

→ 来歴・鑑定情報の記録／B2B事業化

- FY2028上期 高額作品でパイロット → FY2028下期 全件発行
- FY2029 外部向けAPI提供（B2B事業化）
- エンタメ一次オークションの基盤に展開

グローバル展開戦略

アジア圏

香港・中華圏（日本作品代理・相互セール）
韓国（クロスボーダー入札）
台湾（近現代日本・台湾の双方向）

中東

ドバイ・アブダビ（日本作品代理・相互セール及びプライベートセール）
カタール（Art Baselカタール連動）
サウジアラビア/リヤド（日本文化作品流通）

欧米

欧州（ジャポニスム作品流通）
米国（アニメ原画・トレカ越境セール）

※ 海外の提携先は協議中

—— TOWARD FY2029

オークションハウスから、
アート×金融プラットフォームへ。

信頼を礎に、再現性ある収益基盤を構築する。

FY2027 収益回復 → FY2028-29 成長定着

シンワイズホールディングス株式会社（東証スタンダード：2437）